

手賀沼ガシャモク通信

No. 2

手賀沼にかつて繁茂していた水草を復活させるため、千葉県、流域市村、市民の環境団体などから構成される手賀沼水環境保全協議会では、流域の学校に水草の苗を配布して育ててもらい、手賀沼にそそぐ水路に植え戻す試みを始めました。子どもたちといっしょに、手賀沼に水草などの生きものを復活させていきましょう！

手賀沼のかつての沼底に眠っていた埋土種子から蘇らせた沈水植物ガシャモクを育成株分けし、2005年から手賀沼流域の小中学校にガシャモク苗と水槽を配布し、各学校でさまざまな栽培を試みています。

2007年は、手賀沼水環境保全協議会（手水協）と千葉県立中央博物館の共催事業として「手賀沼水草探検隊」を実施しています。この探検隊は、年間4回の合同調査と市民による近隣水域の個別調査を通じて水生植物に関する情報を集約し、手賀沼の全流域の水生植物の繁茂状況を把握、水草地図を作製することを目指しています。併せて、各校に配布した苗を移植する場所を選定することにも有効活用する予定です。

第1回手賀沼水草探検隊は、2007年6月24日(日)手賀沼親水広場水の館にて実施されました。企画の主旨説明の後、我孫子市鳥の博物館、船上からの手賀沼、手賀沼フィッシングセンターでのガシャモク栽培などを見学しました。

第2回手賀沼水草探検隊は、2007年7月22日(日)亀成川上流域で実施されました。本埜村立滝野中学校でのガシャモク栽培、別所調整池、別所川流域などを廻りました。ササバモ、ホザキノフサモ、ハゴロモモなど数多くの沈水植物の繁茂を確認できました。



↑ 普段は立ち入り禁止の別所調整池。許可を得て調査に入った。沈水植物が豊富。



↑ 別所川では沈水植物ヤナギモの繁茂が確認されるなど貴重な情報が得られた。

☆ 第1回手賀沼水草探検隊

2007.6.24 (日)



① 水の館での主旨説明、② 手賀沼の現状と水生植物の紹介、③、④、⑤ 我孫子市鳥の博物館の屋上で実施している各種の水生植物栽培水槽の見学、⑥ 水草探検隊での手賀沼全流域踏査に向けた白地図確認、⑦ 船上から手賀沼を視察、⑧ 手賀沼フィッシングセンターにて実施中のガシャモク苗保護育成を見学、⑨ 手賀沼フィッシングセンター内のコンクリ水路に繁茂するササバモを解説。



↑ 手賀沼フィッシングセンター内のコンクリ水路を観察



↑ 手賀沼公園近くの湖上園では大量のエビモが繁茂



↑ 浅間茂先生がモク採りでエビモを採集して殖芽を観察



↑ 事務局から参加の皆さんへ個別調査での情報協力を依頼

☆ 第2回手賀沼水草探検隊

2007.7.22 (日)



① 亀成川最上流部に位置する本埜村立滝野中学校にて、育成中のガシャモク水槽を見学。②、③ 同校では河邊久男先生を中心に、校内を流れる水路に亀成川で自生の水生植物を移植して育成中。④ 普段は立ち入り禁止の造成地に入り、まさに探検気分で非公開の調整池調査へ。⑤ ササバモ、ホザキノフサモ、ハゴロモモ、イトモなど貴重な沈水植物が豊富に繁茂していることを確認できた。手賀沼流域で最も沈水植物が豊富な池と見込まれる。



①,② 亀成川水系の別所川流域にて、水田の廻りの水路を踏査。③,④ 休耕田や水路トンネル内などを丹念に調査。⑤ 班に分かれて手分けして調査。⑥ 休耕田ではホシクサなど数多くの湿性植物が確認された。⑦ 水路内にヤナギモの繁茂地を発見。⑧ 水田の一角を区切り、湧き水を導いてコウホネを栽培している場所を見学。残念ながら特定外来生物に指定され早急な駆除が望まれるナガエツルノゲイトウも同居していた。本調査を通じて、ナガエツルノゲイトウの繁茂状況も把握できる予定。

この「手賀沼ガシャモク通信」は、「手賀沼にマシジミとガシャモクを復活させる会」の会報「手賀沼マシジミ・ガシャモクだより」50号、51号から記事を一部抜粋して編集しています。

手賀沼ガシャモク通信 No. 2

平成 19 年 8 月 30 日発行

手賀沼水環境保全協議会

事務局

〒 260-8667 千葉市中央区市場町 1-1 千葉県環境生活部水質保全課湖沼浄化対策室

電話：043-223-3821 E-mail：suiho5@mz.pref.chiba.lg.jp